

「私たちが未来をきずく。」をテーマに、世界五大陸 20 カ国から、総勢 79 団体、2,600 人が参加して、2012 年 7 月 31 日(火)から 8 月 5 日(日)までの 6 日間、富山県で「とやま世界こども舞台芸術祭 2012」が開催されました。



富山県では、1983 年以來ほぼ4年ごとに国際アマチュア演劇祭を開催し、今回で9回目となります。子どもと大人が協力し、子どものための舞台公演やワークショップ等を通じて、国際的な文化交流を深めるとともに、世界三大アマチュア演劇祭の一つとして定着させることを目指しています。

1 国際色豊かで多彩な舞台公演

富山県の子どもたち 200 人によるオープニング公演「WE ARE FRIENDS!」をはじめ、エジプトのブラックシアター、オーストラリアの先住民アボリジニーの子どもたちによるダンスドラマ、南米部族のスタイルを強く映し出したエクアドルの演劇など、国際色豊かで多彩な舞台芸術を富山から国内外に発信しました。

中でも、富山県の可西舞踊研究所とチェコのボヘミアバレエ団による合同公演「マッチ売りの少女」は、PAT を縁に成長してきた作品です。

PAT2008 での同公演がプラハ・バレエ・コンセルヴァトワール関係者に高く評価され、2009 年 12 月に可西晴香先生が同校生徒を直接指導、プラハ国立スタヴォフスケー劇場において上演されました。以来、同劇場で 30 回以上再演を重ねられ、2011 年 12 月には、富山県で可西



合同公演「マッチ売りの少女」

舞踊研究所とボヘミアバレエ団による合同公演が実現、さらに 2012 年3月、可西先生がプラハにおいて、再度チェコ版「マッチ売りの少女」を演出・振付し、可西舞踊研究所研修生が主役を演じるなど、PAT をきっかけに長く交流が続いています。

2 今回の特色

PAT2012 を広くPRするとともに、子どもたちに優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供するため、2011,2012 年度の2ヵ年にわたり、県内全 15 市町村においてプレ公演を開催しました。県内と海外の芸術団体による巡回公演を、約 7,500 人の小中学生が鑑賞しました。

また、東日本大震災の際には、海外の PAT2008 参加者から「私たちにも何かできないか」というお見舞いをたくさんいただきました。そこで、岩手・宮城・福島県の子どもたち 132 人を招待する「富山でともだち！プロジェクト」を実施しました。公演鑑賞や海外講師によるワークショップ等を通じて世界の仲間たちとの交流を深めてもらい、少しでも芸術文化による「心の復興」に貢献したいと考えました。



人と人の絆を確かめ合うワークショップ

3 県民からの幅広い支援

ボランティアグループ「とやまこども芸術活動支援協議会」を中心に、外国語専門学校や保育専門学校の学生、中高校生、地元自治会など約 500 人が、ボランティアとして企画・運営に参画しました。

海外・県外団体の受入れ、通訳、公演の会場整理、特設レストランの開設、各種交流事業の実施、協賛物品の依頼など、多くの県民が子どもたちの交流を支え、文化ボランティアの輪がさらに広がりました。



心づくしの「ウェルカムバッグ」作り

4 今後の取組み

PAT2012 では、国際色豊かで多彩な舞台芸術を富山から国内外に発信するとともに、子どもたちが国境の壁、言葉の壁を越えて交流を深め、新しい未来に前進する足がかりをつかむことができました。

今回の成果をもとに、人材や運営ノウハウをしっかりと継承し、さらに充実を図って、世界三大アマチュア演劇祭の一つとして定着するよう努めていきたいと考えています。